

<対策のポイント>

本事業により我が国の農業水利ストックマネジメント技術を活用した施設機能保全計画やストックマネジメント技術のガイドラインを策定し、農林水産省から開発途上国に派遣されている専門家等の活動を通じて、技術の展開を促進し、農業水利施設の長寿命化並びに維持管理費用及び将来の更新費用を考慮した施設計画の作成等にかかる相手国政府の案件形成を支援します。

これらを行うことにより、今後の関連技術分野における我が国の企業の海外展開の促進に寄与します。

<政策目標>

本事業実施後に2件以上の農業農村開発分野のプロジェクトにおいて、本事業の成果を活用【令和4年度まで】

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 開発途上国におけるかんがい施設整備状況調査 19 (-) 百万円

東南アジア地域の2カ国を対象に、これまで整備された基幹的農業水利施設の現状や維持管理の体制や状況、今後の改修計画等に係る情報収集を行います。

2. 実証調査の実施及び施設保全計画の検討(令和3年度実施予定)

収集した情報を基に対象地域、対象地区を選定し、農業水利施設の長寿命化を促進するための機能診断の実証調査を実施するとともに、かんがいシステムの施設保全計画について検討します。

3. 農業水利施設ストックマネジメント技術ガイドラインの策定(令和4年度実施予定)

実証調査の結果に基づき、一連のかんがいシステムの施設保全計画の策定を含む、農業水利施設ストックマネジメント技術のガイドラインを策定します。

〔事業実施期間：令和2年度～令和4年度〕

<事業の流れ>



事業背景

- 近年、東南アジア諸国の農業水利施設の老朽化が進行し、施設機能が低下。末端の農地まで十分な農業用水が行き渡らず、生産性の低い農業を営まざるを得ない状況が生じている。
- しかし、開発途上国においては、老朽化等により劣化した農業水利施設の再建設や大規模な改修を実施するための十分な予算の確保が困難な状況。

→ 施設の改修等を計画的かつ効率的に実施できる手法が必要

我が国のストックマネジメント技術※を活用

※施設全体の現状を把握・評価し、中長期的な施設の状態を予測しながら施設の劣化とリスクに応じた対策を計画的に実施することで、施設の有効活用や長寿命化を図り、ライフサイクルコストを低減する取組

実施内容

現地のかんがい施設の現状調査

成果の活用

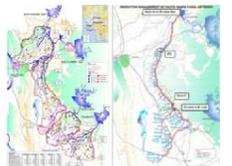
実証調査の実施及び施設保全計画の検討

成果の活用

ガイドラインの策定



老朽化したゲート



施設保全計画の策定

- 相手国政府からプロジェクト要請書の提出
- JICA等のプロジェクトの実施